

焼
き
そ
ば
パ
ン
弁
当

櫻
井
知
愛

ち
え

人物

内海帆花^{ほのか}（18） 高校3年生

内海真緒（41） 帆花の義母

内海一貴^{かずき}（50） 帆花の父

押尾瑛未^{えみ}（18） 帆花の友人・高校3年生

陸上部員A

陸上部員B

○高校・校庭中央

校舎に囲まれたグラウンドに、陸上ウエ
アを着た数名の陸上部員達。

リレーバトンを握った陸上部員Aがト
ラックを走り出す。

○同・校庭隅のベンチ

校庭を見渡せるベンチに、制服姿の内海

帆花（18）と押尾瑛未（18）。

瑛未、膝に弁当箱を出し、帆花を二度見。

帆花がビニール袋からコンビニの焼き

そばパンを出す。

瑛未「とうとう帆花がボイコットを起こしたか」

帆花「え？ボイコット？私が？」

瑛未「真緒さんの焼きそばパン弁当じゃないっ

て事は、そういう事でしょ」

帆花「いや、いや？そういう事……なのか？」

瑛未「真緒さん、一緒にパリに行ってくれない

って？」

帆花「……でも大丈夫。離婚なんて私からした

ら、担任の先生代わるんだってよぐらいの話だから」

瑛未「今まではそうだったのかもしれないけどさ、真緒さんは違うんでしょう？」

帆花「そうだね、最後まで出ていかなかった」

瑛未「じゃなくて。帆花言ってたじゃん。初めてお母さんの温もりみたいな感じだった」

帆花「それは……ほら、私本当のお母さんの記憶ってほとんど無いから、こんな感じなのかなあって思っただけで」

瑛未「じゃあなんで期待してた？一緒にパリ来てくれないかなって、真緒さんにお母さんでいてほしかったんじゃないの？」

帆花「……これ以上真緒さんの時間、犠牲にしたら悪いよ」

瑛未「犠牲？そんなつもりで結婚しないでしょ」

帆花「でも、やっぱり真緒さんにとっても、私がかわいげないお荷物だったって事」

瑛未「またそういう事言う！悪いのはパパが再婚相手をベビーシッターとしか思っていない」

からだ！」

帆花「それは違うよ！パパはいつも忙しいから」
瑛未「帆花はね、パパに振り回されてるんだよ。

離婚だってパリ行くのだって、決めたのは誰？」

帆花「私がパパを応援したいからついて行くの」
瑛未「パパが追いかけてるのは天国のママとの夢なんでしょ？帆花は関係ないじゃん」

帆花「瑛未はパパの事ちゃんと知らないでしょ」
瑛未「でも帆花の事は知ってる。多分一番知ってる」

帆花「……わ、私の事なんか知ってたって、何も面白くないのに。なんかごめん……」

瑛未「帆花がいたい人と一緒にいていいんだよ」
帆花「……私は……」

少し考え、焼きそばパンを袋に戻す帆花。
帆花「パパとパリへ行くのは私の役目だから」
校庭中央から「あゝ」と数人の落胆の声。
瑛未、校庭の方に視線を向けてニヤリ。

○同・校庭中央

項垂れる陸上部員AとBの間に落ちて
いるバトン。

声色を太く低音に変えた瑛未の声。

瑛未の声「オイ！この俺様を落とすなど、どい
うつもりだ愚か者ども！地獄へ堕ちろお！」

○同・校庭隅のベンチ

目を丸くする帆花、ぷっと笑って

帆花「な、何？急に」

瑛未「勝負。よりバトンになりきれた方が勝ち」

帆花「えっ私も？分かんない分かんない！」

瑛未「私が勝ったら帆花はパリに行かない」

帆花「ちょ、ちよつと、それはさすがに……」

瑛未「ほらほら！走った！」

帆花、校庭と瑛未を交互にチラチラ見て

○同・校庭中央

バトンを握って走る陸上部員A。

陸上部員Aの手に握られているバトン。

子供っぽい声色に変えた帆花の声。

帆花の声「ま、待って、手を離さないで……」

陸上部員Bに向かって伸びるバトン。

帆花の声「このまま……このままもつと、君と一緒にいたいんだ……！」

○同・校庭隅のベンチ

帆花の手を握る瑛未。

瑛未「帆花を感じた温もりも、その時の気持ちも、もつと信じていいと思うよ」

瑛未の手をぎゅっと握り返す帆花。

○タチバナベーカリー・外観（夕）

年季が入った佇まいのパン屋。

『タチバナベーカリー』の看板。

○同・店内（夕）

陳列棚に焼きそばパンを並べている内海真緒（41）。ふと手が止まり、トングで掴んだ焼きそばパンをぼんやり見る。

○マンション・外観（早朝）

朝焼けの空に伸びる高層マンション。

○同・帆花の部屋・中（早朝）

机に伏せて寝ている帆花。

帆花の肩に掛かっているブランケット。

顔の下に一枚の写真。笑顔の帆花と真緒。

○同・キッチン・中（早朝）

フライパンで焼きそばを炒める真緒。

真緒の横に静かに近づく帆花。

真緒「おはよ、早いね。寒くなかった？」

焼きそばを見て鼻から息を吸う帆花。

真緒「帆花ちゃん、出来立て、味見してみて」

つまんだ焼きそばを帆花に向ける真緒。

唇を固く結ぶ帆花。

真緒「……私がパリに行けないって言ったから

怒ってる……んだよね？」

帆花「……飛行機が嫌いだからってというのは、

さすがに……」

真緒「ごめん……変に誤解させたくなくて」

帆花「本当の理由、聞いてもいい……ですか」

真緒「そうだよね……こんな事、言って良いのか分からないけど、ちゃんと話さないよね」

真緒、焼きそばをつまんだ菜箸を置く。

両肩を強張らせる帆花。

真緒「私ね、一貴さんと結婚する時に、実家の手伝いを続けさせてもらう事を条件というか、約束にしたの」

キッチンの上を見る帆花。

帆花の視線の先、コッペパンが入った袋。

袋に『タチバナベーカリー』のロゴ。

真緒「出来る限り長く、あの場所であの店を続けたい。だから私は一緒にパリへは行けない」

帆花「……真緒さんは知らなかったの？……パ

パがいつかパリに行くつもりだった事」

苦笑して頷く真緒。

真緒「一貴さんにとって、一般的な価値観の結婚は、最初の結婚の時だけだったんだと思う」

帆花「……ご、ごめんなさい」

真緒「何で帆花ちゃんが謝る？」

帆花「……真緒さんはパパに怒ってないの？」

真緒「うん。感謝してる。やりたい事やらせて

貰いながら、可愛い娘のお母さんにもなれて」

視線を逸らしキョロキョロする帆花。

真緒、焼きそばをつまんで帆花に向ける。

真緒「帆花ちゃん、はい」

帆花、遠慮がちに焼きそばを頬張って

帆花「……やっぱり、ほっとする」

真緒「……そ、そう？」

帆花「明日も明後日も、来週も来月も来年もず

っと食べたい」

一瞬止まる真緒、隠す様に目元を押える。

帆花、袋からコッペパンを取り出して

帆花「パン屋さんを継ぐのが真緒さんの夢なん

だね」

真緒「え？夢、か……。というより、望みかな」

帆花「夢と違うの？」

真緒「そうだね、望みは、自分のだけじゃない

思いと思いが、繋がってるものって感じかな」

帆花「思いと思いが繋がってる……」

真緒「うん。一貴さんの夢も同じなのかも」

帆花「パパの、思いと……？」

帆花からコッペパンを受け取る真緒。

真緒「と、最初の奥さんと、それと帆花ちゃん」

パンを渡した帆花の手が固まる。

○同・エレベーターホール（朝）

エレベーターを待つ制服姿の帆花。

エレベーターが到着し、扉が開く。

前を向いてピタッと足を止める帆花。

中に内海一貴（50）が立っている。手には大きな花束。花束の中に『料理長お疲れ様でした』のメッセージカード。

帆花「パパ……お帰りなさい」

一貴「最後の最後まで店に泊まってしまった」

エレベーターから降りる一貴。

入れ替わりでエレベーターに乗る帆花。

○同・エレベーター・中（朝）

一貴がエレベーターの外で微笑む。

一貴「行つてらっしゃい」

帆花「行つてきます」

エレベーターの扉が閉じる。

小さく肩を下ろす帆花。その瞬間、エレ

ベーターの扉が開く。

エレベーターに乗り込んでくる一貴。

一貴「下まで送るよ」

息を飲む帆花。

エレベーターの扉が閉じる。

一貴が胸元からネックレスを引き出す。

細いチェーンに指輪が1個通っている。

帆花「それ……ママの……」

一貴「やっと約束の果てを見せることができる」

帆花「……パパ、あの……」

一貴「情けないパパだから。いつも感謝してる」

口をつぐみ、首を横に振る帆花。

一貴「少し休んだら、荷造り始めるから」

帆花「……うん……私も」

帆花、視線を落とし、鞆を胸に寄せる。